



2023年4月28日

各 位

会 社 名 トランスコスモス株式会社  
(登記社名:トランス・コスモス株式会社)  
代表者名 代表取締役共同社長 牟田 正明  
代表取締役共同社長 神谷 健志  
(コード番号 9715 東証プライム市場)  
問合せ先 常務執行役員 本社管理総括  
経理財務本部 担当 野口 誠  
TEL 050-1748-0265

当社子会社（株式会社Jストリーム）の2023年3月期 通期連結業績予想値と実績値との差異並びに個別決算における前事業年度の実績値との差異に関するお知らせ

当社子会社である株式会社Jストリームは、2022年4月27日に公表いたしました2023年3月期（2022年4月1日～2023年3月31日）の連結業績予想値と実績値との差異並びに個別業績値と前期実績値に差異が生じたので、別紙のとおりお知らせいたします。

なお、これによる当社連結業績への影響は軽微であります。

以 上

「別紙」

2023年3月期 通期連結業績予想値と実績値との差異並びに個別決算における前事業年度の実績値との差異に関するお知らせ

(2023年4月27日公表 株式会社Jストリーム)



2023年4月27日

各位

会社名 株式会社 J ストリー ム  
本社所在地 東京都港区芝二丁目 5 番 6 号  
代表者氏名 代表取締役社長 石松 俊 雄  
(コード番号: 4308 東証グロース)  
問い合わせ先 執行役員管理本部長 竹見 嘉 洋  
電話 03-5765-7744

### 2023年3月期 通期連結業績予想値と実績値との差異並びに 個別決算における前事業年度の実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2022年4月27日に公表しました2023年3月期(2022年4月1日～2023年3月31日)の連結業績予想値と実績値との間に差異が生じたのでお知らせいたします。また、当社は個別業績予想を開示していませんが、個別決算における当事業年度の実績値が前事業年度の実績値から一定以上変動いたしましたので併せてお知らせいたします。

記

#### 1. 通期連結業績予想値と実績値との差異

(2022年4月1日～2023年3月31日)

	連結売上高 (百万円)	連結営業利益 (百万円)	連結経常利益 (百万円)	親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	1株当たり連結 当期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	13,590	2,080	2,070	1,320	53.08
今回実績 (B)	12,501	1,663	1,652	873	35.11
増減額 (B-A)	△1,089	△417	△418	△447	
増減率 (%)	△8.0	△20.0	△20.1	△33.9	
(ご参考) 前期実績 (2022年3月期)	12,409	2,054	2,052	1,309	52.66

売上高につきましては、当期において、当社主要顧客の一部の製薬メーカーにWEB講演会等イベント実施の絞り込みや、WEB、映像等情報提供用コンテンツ制作の鈍化がみられました。製薬メーカーについては、前年実績を上回る顧客も確保でき、メディア企業を主要顧客とするOTT領域や一般の事業会社を主要顧客とする金融その他業種のEVC領域での実績は底堅く推移しましたが、取引額の大きい顧客の販促活動抑制が大きく影響し、全般としては想定を下回る結果となりました。

営業利益、経常利益につきましては、売上高の不足により、サービス開発推進に伴う業務委託費用支出や、システム開発系の売上が増加したことに伴う外注費増、開発体制充実のための従業員増に伴う労務費の増加等を吸収するに至らず、想定を下回る結果となりました。親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、第4四半期連結会計期間において、当社グループが保有する「投資有価証券」に区分される保有有価証券のうち、時価が著しく下落し、その回復の見込みがないと判断したものについて、減損処理による投資有価証券評価損205百万円を特別損失に計上しました結果、業績予想数値を大きく下回る結果となりました。

なお、配当予想につきましては、本日発表しております2023年3月期決算短信に記載の通り、期初予想の1株当たり16円の実施から変更していません。

## 2. 個別決算における前事業年度の実績値と当事業年度の実績値との差異

(2022年4月1日～2023年3月31日)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円)
前事業年度実績 (A)	9,180	1,464	1,517	1,054	42.41
当事業年度実績 (B)	9,172	1,076	1,203	702	28.23
増減額 (B-A)	△8	△388	△314	△352	
増減率 (%)	△0.1	△26.5	△20.7	△33.4	

売上高につきましては、当期において、当社主要顧客の一部の製菓メーカーにWEB講演会等イベント実施の絞り込みや、WEB、映像等情報提供用コンテンツ制作の鈍化がみられました。製菓メーカーについては、前年実績を上回る顧客も確保でき、メディア企業を主要顧客とするOTT領域や一般の事業会社を主要顧客とする金融その他業種のEVC領域での実績は底堅く推移しましたが、取引額の大きい顧客の販促活動抑制が大きく影響し、全般としては前年を僅かに下回る結果となりました。

営業利益、経常利益につきましては、サービス開発推進に伴う業務委託費用支出や、システム開発系の売上が増加したことに伴う外注費増、開発体制充実のための従業員増に伴う労務費の増加等の影響から、想定を下回る結果となりました。当期純利益につきましては、第4四半期会計期間において、当社が保有する「投資有価証券」に区分される保有有価証券のうち、時価が著しく下落し、その回復の見込みがないと判断したものについて、減損処理による投資有価証券評価損205百万円を特別損失に計上しました結果、前年を大きく下回る結果となりました。

以上